



知っておきたい！ 健保のコト

VOL.63

厚生労働省が「出産ナビ」の運用を開始

厚生労働省は、全国で分娩を取り扱う施設（病院・診療所・助産所）ごとの特色やサービスの内容・費用の情報を掲載するウェブサイト「出産ナビ」をこのほど開設しました。

初産か2人目以降の妊娠か、里帰り出産かなど、妊婦さんやパートナー、ご家族によって、出産施設へのニーズはさまざまです。出産にかかる費用も、地域や施設によってばらつきがあり、自分の希望にあった施設をどう調べてい

いか分からない人も多いのではないのでしょうか。

「出産ナビ」は、開設時点で全国2043施設（年間分娩取り扱い件数が21件以上で出産育児一時金の直接支払制度を利用している施設の約96%の情報を掲載）ごとの所在地、電話番号、アクセスマップといった基本的な情報や費用の目安、さらには外来予約の要否や無痛分娩の対応状況、外来受付時間などが掲載されています。「施設の情報」「助産ケア」「付帯サービス」「費用」等についてはより詳細な情報を確認することもできます。利用者は希望するエリア（最大3都道府県の市町村を選択した上で検索することが可能）や詳細条件を指定して検索し、該当施設は一覧や地図上から表示することができます。

妊婦さんやパートナー、ご家族に活用されることが期待される「あなたにあった出産施設を探せるサイト『出産ナビ』」はこちらから



政府は6月21日、国の予算編成や経済財政運営の指針となる「骨太の方針2024」を閣議決定しました。骨太の方針では、多岐にわたる課題を取り上げていますが、少子高齢社会における医療・介護等の課題についても言及しています。

少子化といえば、厚生労働省が同月5日に公表した2023年の人口動態統計月報年計（概数）では、出生数が72万7277人で8年連続減少し過去最少を記録、女性が一生の間に産む子どもの数を表す合計特殊出生率も1・20と過去最低を記録したことが分かりました。一方、死亡数は157万5936人、自然増減数は△84万8659人と17年連続の減少で過去最大です。

この数十年で人口や社会の構造、さらに人々の働き方は大きく変わりました。今後、社会保障の持続可能性を確保していくためには、医療・介護を含む社会全体のDXを推し進めていくことが、今回の骨太の方針が求めている取り組みの1つであるといえそうです。

この数十年で人口や社会の構造、さらに人々の働き方は大きく変わりました。今後、社会保障の持続可能性を確保していくためには、医療・介護を含む社会全体のDXを推し進めていくことが、今回の骨太の方針が求めている取り組みの1つであるといえそうです。

「骨太の方針2024」を閣議決定 医療・介護等のDXを着実に推進

★ Special Issue

の就業の正規化促進など、わが国の成長力を高める取り組みが必要としています。

社会保障分野では、医療・介護の担い手を確保し、より質の高い効率的な医療・介護の提供体制を構築するため、政府を挙げて医療・介護DXを強力に推進するとしています。そのための具体的な課題として、ロボット・デジタル技術やICT・オンライン診療の活用などを挙げています。さらに、12月2日からマイナ保険証を基本とする仕組みに移行するほか、全国医療情報プラットフォームの構築、電子カルテの導入や電子カルテ情報の標準化、電子処方箋の普及拡大などを推進するとしています。